

A-1 学校研究

1 研究主題

学び合い、考えを深める児童の育成

～ 活用力の向上をめざす授業づくり ～

2 主題・副題設定の理由

学習指導要領が改訂され、「生きる力をはぐくむ」という理念の下、確かな学力を身につけるために、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ」ことが総則の中に掲げられている。そして、解説では「各教科では、基礎的・基本的な知識・技能を習得しつつ、観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成する、文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといったそれぞれの教科の知識・技能の活用を図る学習活動を行い、それを総合的な学習の時間を中心に行われている教科等を横断した課題解決的な学習や探究活動へと発展させることが重要である。」と説明されている。

これらをうけて石川県では、一人一人の児童に確かな学力を身につけるために「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等（「活用力」）を高める」ことを重点課題としている。

本校は、これまで算数科を中心に学び合いの学習を進めてきた。

各自が課題についての自分の考えを持ち、根拠を挙げながら発表し、互いに意見を交わしながら、計算のやり方を習得したり、より分かりやすい考え方を探ったりして学習を深めてきた。また、授業の終わりには学んだことを振り返り、自分の言葉でまとめる活動も行ってきた。しかしながら、これまでの実践により、学び合いの学習の形はできてきたものの、学んだことが次の学習に十分に生かされていないという課題が明らかになってきた。

また、平成20年度「全国学力・学習状況調査」と県の「基礎学力調査」の結果はおおむね平均正答率を上回っていたが、分析すると、「自分の考えをまとめて書いたり、分かりやすく説明したりする力や、複数の資料を読み取り、情報を選択して活用する力が十分とはいえない」という課題が見られた。

本校の教育目標「たくましい心と体、豊かな知性と人間性を備えた子どもの育成に努める」は、知・徳・体をバランスよくはぐくみ、「生きる力」につながるものである。

本校児童の実態をふまえ、教育目標の実現をめざすには、児童が学習によって身につけた知識や技能を次の学習や様々な場面での課題解決に生かす力を育てることが大切であると考えた。これは、石川県が重点課題として向上を目指す「活用力」に結びつくものである。

今年度の研究を進めるにあたり、これまで積み上げてきた学び合いの学習の成果を生かし、継続しつつ、活用力の向上をめざした授業のあり方を工夫していくことが大切であると考え、研究主題を「学び合い、考えを深める児童の育成」とし、「活用力の向上をめざす授業づくり」を、算数科を中心に進めることとした。

学習で身につけた知識・技能の活用は、これまででも行われてきていることであるが、児童の思考力や判断力、表現力等の育成に重点を置き、授業の中に活用する場を設定し学習課題の工夫や授業展開を工夫していきたい。また、基礎的・基本的な知識・技能の習得が不可欠であることは言うまでもない。

20, 21年度、「活用力」向上推進モデル校の指定を受けたことを生かし、成果の検証を図りながら本校の研究を進めていく。

3 学び合いの授業づくり

		活用力向上のための手だて	具体的な方法・内容
単元計画		<ul style="list-style-type: none"> 単元計画案を作成する 活用力向上させる場面を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいを明確にし、児童の思考過程を重視する 必要とされる既習事項を洗い出す 活用に関する観点を明確にする 板書計画を立てる
学習課題		<ul style="list-style-type: none"> 既習の知識・技能を利用する、生かす、まとめて表す、比べて考える、あてはめるなどの活動を取り入れた課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいに沿い、考える場、記述する場、説明する場、探究する場を持たせられる課題 既習の内容や経験を生かし、考えを深めることができる課題 生活とつながり、考える楽しさが感じられ、意欲を引き出す課題
学習過程 	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 課題提示を工夫する 見通しを持たせる(思) 既習事項を引き出し、筋道を立てて考えさせる(思) 考えを書かせる(表) 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を書かせ、内容を確認させる 必要に応じて既習事項を振り返らせる 問題の中から情報を分類整理、選択させる(判) 自分の考えを適切に伝える表現方法を意識して書かせる(絵図、線分図、数直線、表、式など) ノートの使い方を教える(見開き、色分け、箇条書き、根拠)
	学び合う	<ul style="list-style-type: none"> 発問の仕方を工夫する 自分の考えが伝わるように根拠を挙げて説明させる(表) 友達の考えについて根拠を挙げて、意見を述べさせる(思・表) よりよい方法、より分かりやすい方法を追求させる(思・判) 板書計画を立てる 問題作りをさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ゆさぶりをかける発問をする 絵図、数直線、表、式などを活用させる 説明の仕方の基本形を教える キーワードをカード化して掲示する 聞いて考えた理由をはっきりさせる 生活との結びつきを工夫する 学習内容を整理する板書を工夫する 問題作りのパターンを教える
	振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りを書かせる 評価問題をさせる 児童の変容をつかみ、手だてが適切であったかを評価する 	<ul style="list-style-type: none"> 分かったこと、気づいたこと、次への意欲等を図や式を用いながら自分の言葉で表現させる よりよい表現を紹介し学ばせる

4 活用力向上をめざした学習活動の観点

20年度学力調査算数科 主として「活用」に関する問題作成の観点から引用

① 物事を数・量・図形などに着目して観察し的確にとらえること

日常の場면을観察して、数や量の関係をとらえて規則性を見いだしたり、図形を見いだしたりすることなど

② 与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること

与えられた情報を分類整理し、目的に応じて情報を選択したり、複数の情報を関連付けたりすることなど

③ 筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること

「筋道を立てて考えること」

解決の見通しをもち問題の類似性に着目して類推したり、共通性に着目して一般的な事柄を帰納したり、ある事柄が正しいことを、根拠を基にして演繹的に明らかにしたりするなど

「振り返って考えること」

解決方法や得られた結果の妥当性を吟味して改善したり、問題の条件を変えて発展的に考え一般化したり、複数の事象の共通点を見いだして統合したりするなど

④ 事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること

「事象を数学的に解釈すること」

言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて数学的に表現されたものの意味や考え方を理解したり、その特徴をとらえたりするなど

「自分の考えを数学的に表現すること」

言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて表現する